



地元をよく知っている皆と共に  
 県庁職員・企業庁職員による  
 武西・谷田地区現地視察  
 2006.6.15 am9:00~12:00



記録：北総生きもの研究会

千葉県職員：庄司・熊谷・若梅      企業庁職員：5名  
 参加者：長谷川先生・岩本・丹澤・堺（義）・秋井・相馬（唐）・緒方・米田・森田・鈴木  
 中條・増木・坪井・相馬（な）      （敬称略）      総勢22名

武西・谷田地区は北総地区で伝統的な生態系として、地域の固有動植物を残している場所であり、  
 その中で特に今日は、千葉県RDBに掲載されている種が多い草原と湧水を中心に見ていただき、  
 千葉県を始めとした関係自治団体が協力して保全して欲しいことをお願いし、現地に向かいました。



企業庁の土地でゴルフをやっている人が草刈を頻繁に行い、出入りも  
 も多くなっているため、草原性の植物が劣化している。（アマナ・イ  
 ブキボウフウ・マヤランなど希少種が生息している）  
 春・秋2回程度の草刈が適度。また、帰化植物が急速に増えている。



谷田地区の核心部分の湧水。  
 神崎川に注ぐ、地域の水源として貴重な沢山の泉。北総生きもの研究会  
 の5月の観察会時には、オオルリの  
 鳴き声を確認。  
 …が、年々泉の湧く量が減少。  
 湧水保全が Key ポイントになります。

談笑しながら気持ちよく散策。  
 なめらかな曲線を描く  
 みんなの癒しの原っぱ……



最後に、県の職員の方から、どのような形で保全していったら  
 良いか、この地域の良さをどうアピールしていくかの具体的  
 な提案を市民の皆さんからして頂くことにより（市民からの将来構想が大切です。）、県の方  
 としても協力が出来ると思いますとのコメントを頂きました。

6月16日(金) pm7:00~9:00 於: ウェルプラット  
7団体による武西・谷田地区の保全に関する集まり

参加者: 長谷川・米田・永瀬・相馬(唐)・森田・坂巻・堺(義)・堺(初)・丹澤・今城・鈴木・  
増木・秋井・相馬(成)・相馬(な) 敬称略

◇6/15の県と企業庁職員による現地視察の報告

◇大槻副知事から、県として保全の方向で動くと、長谷川先生に話があった。

◇市民からの提案書をどう作っていくか 第2弾、第3弾…を考える

- ・大切なことは、民意の総体として守るという大きな動きにならないと、一部の自然好きな人だけの要望ではダメで、市民からの提案や活動が重要。
- ・第2弾として 7団体の活動方針に則った共通理解をした上での行動計画を示したパンフレット(冊子)を作成していく。  
各グループが、どう保全に貢献できるかをまとめていく。
- ・7団体での武西・谷田地区の保全に関する行動計画と、生物学的見地から保護区のゾーニングをする。そして、行政へ提案する。行政は一般市民や行政間同士の調整機関として動いてもらう。保全計画を作る上で、行政に適宜、経過を伝えていく。
- ・今の都市計画は、生物学的見地が薄い行政計画なので 保全区のゾーニングを私たちが決めていく。(景観、生きものの両方を残していく方向性)
- ・白井市は、みどりの基本計画にこの地区が入っているが、印西市はニュータウン計画の除外地という扱いのため、保全計画がない。このため、温度差が大きい。

◇武西・谷田地区の保全に関する7団体の集まりの連絡・調整方法をどうしていくか。

パソコンネットによる配信をRCNの丹澤様にとりまとめをして頂く。(管理人は長谷川先生)

※丹澤様より……「丹澤まで、空メールを打ってください」

丹澤 正直様 電子メール アドレス: [tanzawa@business-i.org](mailto:tanzawa@business-i.org) (詳細はメール本文参照)

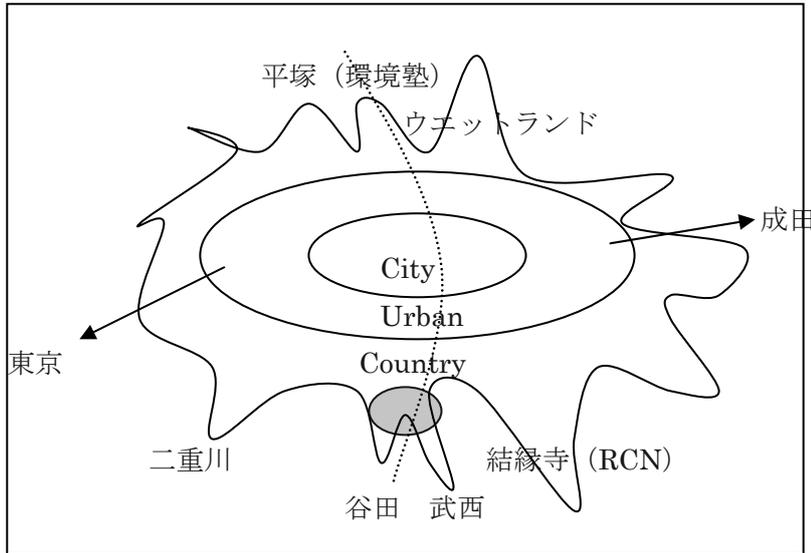
◇さくら市の事例紹介 ——緑の回廊の設定と保全 1999—— (資料配布)

佐倉市では、環境調査を博物館と一体でおこなわれたが、此の時、市民活動をしているグループが、指標種を環境と照らし合わせて保全地域のランク付けを行った。

それが、原動力となって東京情報大学とNPOが共同で市に提案し、保全地区が佐倉市の緑の基金で購入された。

◇印西市・白井市でも重要性と緊急性を照らし合わせて優先順位を決めていく。その点では、武西・谷田地区保全の根拠を取り付けていけないのではないかな。

- ・グループの活動フィールドを 地図上に落としていく。
- ・行政区をとりはずしてプランを考えていく。
- ・情報公開していく。
- ・土地所有者との問題が出た場合は、市が解決していく。
- ・担当課を巻き込み、協力を得ながら活動する。



- ・里山の良さは、歩いてすぐの所に、いいところがあるということなので、里山の資源を発掘し、里山資源としていかす。千葉県全域から子どもたちが来られるような環境教育の拠点としていく。
- ・原体験が醸成できる場所なので、街づくりに反映させる。

◇武西・谷田地区の活用・保全をするための提案

—— インデックスマップをつくろう！ ——

- ①環境学習の拠点施設
- ②営業（市民農園・農家レストラン・ビジターセンターなど）
- ③貴重生物の保護
- ④里山とのふれあい（観察会プログラム）
- ⑤生態系の保全
- ⑥ゾーニング
- ⑦管理運営計画とその主体

担当

- 丹澤・長谷川  
環境ネットワークの会  
環境ネットワークの会  
 { サシバ調査グループ }  
 { 白井の自然を考える会 }  
 ウエットランド  
 { 北総生きもの研究会 }  
 { 環境ネットワークの会 }  
 { RCN }  
 { 北総生きもの研究会 }  
 しろい環境塾

土地所有者地図（資料）・・・・・・・・・・白井市・印西市  
 写真（生物・環境）・・・・・・・・・・北総生きもの研究会  
 植物園（栽培技術・種の保存）・・・・・・・・



この提案を形にする為、1ヶ月後に各団体がもちより、ラフ原稿をつくっていきましょう。

次回、勉強会は、7月15日（土）PM1：00～ 於：ウエルプラット